

兵庫教区との宣教協約締結を可決

北海教区

4月30日、5月1日にかけて、札幌北光教会を会場に、第78回北海教区定期総会が開催された。開会時の議員数は、125名中105名であった。

議長総括で議長は、まず、「時代の状況の項で、教会が置かれている日本社会に対する様々な懸念として、改憲、天皇交代、

議長総括で議長は、まず、「時代の状況の項で、教会が置かれている日本社会に対する様々な懸念として、改憲、天皇交代、

「北海教区の課題と取り組み」の項で、そういう懸念材料がある中で教会が積極的に社会、地域と

「北海教区規約変更に関する件」、「釧路教会と春探教会合併申請承認に関する件」、「北海教区と兵庫教区との宣教協約締結に関する件」等を可決した。

その他、日向恭司幹事から小西陽祐教師に幹事を変更する議案「北海教区幹事選任に関する件」、

「北海教区規約変更に関する件」、「釧路教会と春探教会合併申請承認に関する件」、「北海教区と兵庫教区との宣教協約締結に関する件」等を可決した。

常置委員選挙結果（半数改選）

【教職】柴田もゆる（函館千歳）、卜部康之（千歳栄光）

【信徒】佐久間光昭（置戸）、島田久美子（月寒）、板谷良彦（札幌北部、1年任期）

（函館千歳）、指方信平（札幌北光）、卜部康之（千歳栄光）

教師謝儀規定変更案を可決

四国教区

4月30日、5月1日、高知教会において第76回四国教区総会が開催された。開会時出席議員は152名中122名。

組織会後、直ちに教団総会議員選挙を行い教職・信徒各9名を選出した。

財務関連審議において謝儀規定変更案が提案された。2015年から検討を開始し75総会に提示された変更案は、この1

案された。従来、公務員高校教諭給与表を参考に謝儀基準を定めてきたが、各教会の謝儀の実情と乖離が顕著になってきたことから変更案を提案することとなった。

旧来の年功序列型ではなく、教師の年齢で変化することによって伝道の将来を開こう」との原点を確認する提案となった。

変更案に、基準の実質引き下げとなることに反対する意見、教区互助額に相当する自立連帯献金への参加率を上げるべき等の意見があった。しかし総会期をまたいで丁寧

【教職】黒田若雄（高知）、寺島謙（松山城東）、松井暁郎（大洲）、上島一高（松山）、小島誠志（久万）、篠浦千史（さや）、矢野敬太（愛南）、岡本康夫（南国）、大田健悟（鴨島兄弟）

【信徒】長島恵子（鴨島兄弟、近藤康夫・新居浜西部、脇萬里子（三島真恵さん）

（新報編集部報）

これらは各議案に反映され、「天皇の代替わり」ともなう即位儀式に際し、憲法の国民主権を徹底し、政教分離に違反する大嘗祭などを国事行為とせず、国費を用いて行わないことを要請する決議に関する件」、「安倍政権が2020年までの実施を目指している『憲法9条に自衛隊を明記す

る。日程などを考えて教団総会に出席が可能か等、分区長がそれぞれに考慮して候補とする。参

考候補者以外への投票も先立って、黒田若雄議長は議場に立候補を確認したが、候補者はなかった。

常置委員会報告では、抜本的な教区教師謝儀規定見直しの協議を継続し本総会に提案すること、

と、ハラスメント対策委員会設置、東日本大震災被災支援小委員会活動終了等が報告された。

生活状況に合わせ柔軟に対応し、また、今後予想される互助申請増加に应付するための変更となる。

1958年に教区謝儀基準を定めたときの「教師が安心して生活できなければ伝道の前進は望めない」、「教師の生活を支えることによって伝道の将来を開こう」との原点を確認する提案となった。

2日目朝には、逝去教師2名の追悼式と、新たに立てられる教師3名の准允式が続けて行われ、伝道者の糧が引き継がれる象徴となった。

教団総会議員選挙結果

【教職】黒田若雄（高知）、寺島謙（松山城東）、松井暁郎（大洲）、上島一高（松山）、小島誠志（久万）、篠浦千史（さや）、矢野敬太（愛南）、岡本康夫（南国）、大田健悟（鴨島兄弟）

【信徒】長島恵子（鴨島兄弟、近藤康夫・新居浜西部、脇萬里子（三島真恵さん）



新しく立てられる正教師に按手する



馳せ場を走り終えた教師を記念して追悼式を行う

7教会、交付金未申請

熊本大分地震被災教会会堂等再建支援委員会

4月3日、第5回熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会が教団会議室で開催された。

第4回常議員会で支援募金は目標額1億8000万円に対してあと約6000万円不足のため、募金期間を2019年3月31日まで延期したことを確認した。

梅崎浩二九州教区議長からは、前回の報告以後に援助金が交付された教会の現況報告がなされた。熊本草葉町教会は修理完了、熊本城東教会は牧師館のみ修理完了。限

府教会は2月18日、由布院教会は3月25日にそれぞれ献堂式が祝福に内を終了、別府不老町教会は

5月20日に献堂式予定とのこと。それぞれの教会が全国の諸教会からの支援に励まされ、深く感謝している旨が梅崎議長から伝えられた。以上の5

教会への交付金は合計で8072万1627円であることを確認した。一方、修理の必要があるのに交付金申請がまま

ならぬ教会の主な事情は、見積もり・工事を請け負う業者不足だということ

が報告された。またその途上にある教会は、武蔵ヶ丘教会、八代教会、別府教会、熊本城東教会会堂の修理見積り、在日大韓基督教会熊本教会、玖珠教会、諫早教会である。

一日も早く補修の見通しが立つことが切望されていることを確認した。募金総額は3月31日で、1億2438万2935円である。

（田中かおる報）



18年4月8日逝去、93歳。山梨県生まれ。90年日本聖書神学校卒業。同年より95年まで阿佐ヶ谷教会を牧会。遺族は息・中山宏さん。

▼「障がい」を考える小委員会▲

10月開催「全国交流会」を準備

宣教委員会の下に設置されている当小委員会は、「障がい」を考える全国交流会」を2年ごとに主催している。10月1〜2日には「牧会者ならびにその家族の精神的ケアを考える」を主題に全国交流会を開催する。

また「牧会者とその家族のための相談室」設置は当委員会の祈りの課題である。

4月16〜17日、第3回委員会を瀬戸キリスト伝道所（高知）にて開催した。

1日目は委員会協議の時を持ち、2日目は、今秋の全国交流会講師の杉本園子氏（高知教員、臨床心理士）を招き学びと懇談の時を持った。委員会は高知で開催したのは、高知で働きを担っている杉本氏と会うためである。

1日目の協議では、主に全国交流会のための準備の確認をした。各教区を通して参加申込みしてもらいたい。

また、「相談室」設置準備委員会に加藤幹夫委員長より経過報告を受けた。常議員会では時間を割いて審議され、理解が深まったこと、実際に相談に当たる相談委員の研修や匿名性の課題、牧師からの相談を担うのは牧師の方が良いとの指摘があることなどを共有した。

2日目は杉本氏を招いて話を聞いた。精神科では治療法として与薬があるが、障がいは薬では治せない場合が多く、心理

療法、環境調整などが必要なこと、牧会にて牧師が一人で背負い込むのではなく、保健所などの連携を求めて良いこと、また例えば、臨床心理士でも患者の相談に乗りながら、臨床心理士自身のメンタルヘルスを守るためにストレスを管理していく術が必要であることなどを聞いた。

もっとも、結果的に一方的に話を聞くよりも、委員が障がいと牧師・家族を巡る課題を出し合い、杉本氏に共有してもらう会となった。交流会に向けて良い準備の時となった。

（森田恭一郎報）

セクシャル・マイノリティ理解を求めて

去る3月27日、教団会議室にて部落解放センター主催の「第31回神学校等人権教育懇談会」が開催された。8つの学校から9名の教師と部落解放センター担当者を合わせて21名の参加があった。この懇談会は神学教育・キリスト教主義教育における人権教育の深化と発展を求めて、積み重ねられている。

今回の主題は「教会内外におけるLGBTセクシャル・マイ

さん（農村伝道神学校）より発題を受けた。平良さんは、セクシャル・マイノリティについての基本的な理解を提示しつつ、教会における差別の現実を指摘した。

発題後の懇談では、20年前からの議論が未だに同じところに立ち止まっている現実が明らかになった。部落解放センターは「同性愛者は牧師となるべきではない」という理解は差別であると認識している。教会が差別をしないために、今後この課題に向き合い対話を継続していくこと、そのために次年度も同じテーマで行うことを確認して会は閉じられた。



森なおさん（加古川東教会）による開会礼拝の後、松見俊さん（西南学院大）から、西南学院におけるセクシャル・マイノリティの人権に関わる取組みの報告を受けた。そして平良愛香

（斎藤成一報）

周縁からの宣教

3月8日から13日にかけて世界教会協議会（WCC）の世界宣教伝道会議がタンザニア・アルルシャにて開催された。テーマは「霊に導かれて進むこと」変革をもたらす主の弟子となることへの招き」だった。全体で1000名以上、日本から10名が参加、教団世界宣教委員会からは、野川祈氏（国立）と三浦洋人氏（仙台北）を派遣した。会議は、礼拝、聖書研究、社会と教会が抱える課題についての発題とワークショップから成り、特に10日は「周縁からの宣教」（Mission from the Margins）というテーマで障がいを抱える人、少数民族、移民、女性等から発題があり、討論する時間があつた。ここで言う周縁とは社会から弾き出された弱者を指す。確かに周縁に置かれている人々に眼差しを注ぐことは極めて重要であるが、「周縁や少数民族という言葉を用いること自体が、中心にいる自分たちと、そうでない人々を既に差別してしまう」という指摘もあった。

会議にはイスラム教等、他宗教からも参加者があつた。日本に存在する宗教は多様だが、他宗教であっても「隣人」として愛していくことが、この日本社会にキリスト者として生きていくためには大切なことと感じた。

会議中至るところで現地教会の方々による迫力のある讃美やダンスに触れた。心を込め精神を尽くして主に讃美を捧げる姿を見て、文化や個人各々に適した方法があるが、主を讃美する姿勢を省みる機会となった。

（廣中佳実報）



《募集（正職員）》

「アジアキリスト教教育基金」事務局長

◎応募 締 切
2018 年 6 月 30 日

◎問い合わせ先
アジアキリスト教教育基金人事委員会（新宿区西早稲田 2-3-18-26、TEL 03-3208-1925）
詳細は HP 参照
<http://www.acef.or.jp>



橋本 伊作さん

成長させてくださるのは神



クリスチャンホームに生まれ、佐原で肥料・農業生産関連資材販売業を営む。佐原教員。

かつて「江戸優り」と言われるほどに栄えていた水郷の町・佐原には、屋号を代々引き継いでいる商家が多い。橋本伊作さんは「司佐野屋」に生を受けた。曾祖父は今年で創立130年となる佐原教会の当初からの教員で、橋本さんは四代目にあたる。「あなたの家は教会守りなんて、よく言われますが」と、橋本さんは面映ゆげに目を伏せた。「人間に神様を守るはずがありません。恩寵の中に置かれているのは私とです」。

教会に通うことを当たり前として育ったが、主との出会いにはなかなか訪れなかった。千葉支区中高生修養会で、感動的な証しを語る仲間が羨ましかった。

高校2年で受洗した。救われた喜びは大きく、結婚して授かった長女には「今日」に通じる「杏子」をつけた。CS教師、役員として仕え、一昨年の会堂建築時は会計を担当し、建設のために働く中で、人の思いを超えて多くを与えてくださる主の恵みを知った。

良い土作りの技術的な助言をしながらも「土はひとりでに実を結ばせる」の御言葉を忘れたことはない。命も、すべての事柄も主が豊かに導き育ててくださると信じて、与えられたこの場とこの日を大切に生きてゆくことが橋本さんの祈りである。

アスファルトを突き破って

3年前、教会駐車場のアスファルト舗装工事をした際、余ったアスファルトを、雑草で悩まされていた細長い隙間に敷いてもらった。工事担当者からは、「下地をきちんとやっていないから草が生えて来ますよ」と言われた。

その言葉の通り、アスファルトを突き破って、草ならぬ、球根を全部移植したはずの水仙とチューリップが顔を出し、前よりも大きく育った。花の生命力の強さに皆驚いたが、埼玉から引越して来られた会員が本当に感動して見えていた。彼女は息子さん家族がおられる秋田に転居して来られたのであるが、冬の寒さと雪国の生活の厳しさにいささか気落ちしておられた。

彼女が先日、「こんな記事がありました」と、新聞の切り抜きを見せてくれた。あるテレビ番組の紹介記事で、アスファルトの下は乾きにくく、光が当たりやすいので、植物の成長には好条件なのだといった。植物学者の、「（植物にとって）ハッピーだと思えますよ」との言葉もあった。植物は移動できないので、自分が置かれた場所で成長することしかできない。どうしてこんなところに根付いたのだらう...と思うような所でも、そこが植物の成長にとって好条件である場合もあるとのことである。

置かれた場所、遣わされた地で、野の花を装ってくださる神さまが備えられた恵みがあることへの不思議さを思わされた。

（教団総会書記 雲然俊美）